

アメリカ・スタンフォード大学での Japan-US Research Collaboration Week 2026 に参加し、“AI for DRR”のテーマでセッションを開催しました（2026/07/22）

テーマ：災害科学、AI、国際共同研究

会 場：アメリカ合衆国 カリフォルニア州 スタンフォード大学

URL：<https://jurconference.stanford.edu/>

2026 年 7 月 22 日（水）から 24 日（金）、Japan-US Research Collaboration Week 2026（日米研究連携促進週間）が米国・スタンフォード大学にて開催され、小野裕一教授（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）がセッションを主催しました。本会議は科学技術振興機構（JST）および同大学が主催する、医療・防災・科学技術・スタートアップ戦略等の幅広い分野における日米の研究者・政府関係者・産業界関係者等が会する国際会議です。

小野教授のセッションは日米から登壇者を迎え、“AI for DRR”と題して、工学・金融・気象といった多分野からの防災に対する AI を用いた取組や今後の活用可能性を紹介・議論しました。ビデオ出演の当研究所の越村俊一所長は、リアルタイム津波浸水・被害予測情報サービス「Tsunami Cast」の活用方法や国際的な展開可能性等について講演しました。小野教授がモデレーターを務めたパネルディスカッションでは、防災分野における AI にとっての良質なデータと活用方法、今後防災分野にもたらす AI の影響等について議論しました。

本会議は、日米両国における様々な分野の研究や事例を聴講する貴重な機会となるとともに、防災に関する取組を紹介し、議論を深める場となりました。来年は仙台で開催されるアジア太平洋防災閣僚級会議の事前セッション等を予定しています。APRU や UCDRN といった大学ネットワーク等を活かし、今後も防災分野における産官学間連携および日米をはじめとした国際連携の推進に取り組んでいきます。



セッション中の様子



ネットワーキングレセプション



登壇者の記念撮影

（後列左から、NVIDIA Subramaniam 氏、ウェザーニューズ 立野氏、University of California, Riverside Funning 教授、前列左から、パシフィックコンサルタンツ・当研究所 矢野有希子共同研究員、小野教授、政策投資銀行 蛭間氏）